

京都駅のそば（下京区）で生まれ幼年期をすごしました。その頃、京都駅近くには外国人や日本在住の朝鮮人も多く、幼年時代はハングルや英語やフランス語や中国語の生活用語を話していました。もう忘れましたが、耳は今も覚えてくれています。字を読めない年齢で、当然洋画も字幕なしで見て、幼年時代から外国の風景にあこがれ、それらの音楽も大好きでした。

小学生時代は、北区紫野地区に住み、紫式部のお墓がそばにありました。通学していた紫野小学校の近くには、織田信長を称えた建勲神社がある船岡山があります。船岡公園で放課後には友達と早く陣取り野球をしました。

中学校は白梅町にあるカトリックの洛星中学校の1年に進学し、休みにはよく自転車で嵐山まで友達と遊びにいきました。中学2年の夏に伏見桃山地区に住み、観月橋を渡り宇治川を眺めながら、京都南の伏見桃山から京都北西の白梅町迄自転車で2時間以上かけて通学しました。雨の時は京阪電車の宇治線観月橋駅から三条京阪駅まで京阪電車に乗り、衣笠行きのバスに乗り換えて1時間半かけて白梅町の中学校まで通学していました。週末は、伏見桃山から、宇治、東山、比叡山、修学院、八瀬、大原、木船、鞍馬、北山、嵐山など京都の観光名所を回り、岡崎、八幡、田辺や奈良までもよく遊びに行きました。

京都中の寺院を自転車で毎日見て回りましたが、残念ながら、カメラを持っておらず、当時の写真は全くありません。鴨川や宇治川の河川敷で時々スケッチしたのが何枚かあるだけです。京都に生まれ育ち、17歳で渡米してそれ以後は京都には時々親類に会いに行く程度です。

外国生活も10年以上経験しましたが、カメラを持つ事はなく、写真の記録がないのが残念です。当時の京都の故郷の写真も長い外国生活の写真もほとんどありません。まったく、もったいない事をしました。

SONY ではそのビデオカメラやデジカメを造り、その超光感度の半導体受光素子を1975年3月5日に発明しました。特許はもう切れており今は世界の財産となり世界中のカメラに私の発明した半導体部品が使われています。メカフリーの電子シャッターも私の発明です。しかし、カメラを自分が使うことには私は全く関心がありませんでした。

SONY ではカメラを造る、半導体部品の研究開発の仕事で家族を支え食べていました。他の人が撮った写真や他の人が撮影した音楽ビデオで外国の風景が音楽の中で映し出すシーンが大好きです。自分の仕事が役にたっていることに幸せを感じています。鳶尾カフェでは、今週牧野さんが撮った京都の写真の中に、自分の青春時代を思い出します。

私の長男の昭紀（51歳）はプロのカメラマンです。彼のカメラにも私の発明した超光感度半導体部品が内蔵され活躍しています。彼はプロのカメラマンですので、彼の撮った仕事の写真は自分のものではなく、スポンサーの所有物となります。長男も自分が撮った写真が、スポンサーが所有しそれを有効活用することを最高の喜びと感じて仕事をしています。

自分の仕事を通じて他の人を幸せにすることに喜びを感じて、そのお陰で自分も幸せになれるという事を、私も長男も実感しています。

これから島津格君を発起人にして、洛星の同級生や卒業生を中心に、京都市の知事も洛星の卒業生の後輩です。厚木市、京都市、それに熊本市に応援をお願いしたいと、まずは同級生からの応援募金をお願いしたいです。

昨年、洛星時代の同級生仲間の則内君と勝田君がビジネスを目的として、投資家を探してくれましたが、結局そんな人は見つからず、空振りでした。その間に、吉澤君や市田君などハンドボール部の仲間もビジネスには関心がないと、反論を受けて、「則内君がお金を投資家から集めるのなら協力したくない」と言われて中断することになりました。

その事を則内君は理解していません。高望みするより、地道にまずは原理試作のみに努力を集中しいです。応援者の皆さんも集中してほしいです。

私が一番悲しくなり怒りを感じるのは、弱者の話を無視して、下々の話に聴く耳を持たない、権力者（はだかの王様）が、昔も今も東洋の封建社会には多い事です。欧米で夢を追う人が増え、海外への頭脳流失の原因です。

実は厚木市にある神奈川工科大学にも看護科があります。看護志望の女学生が、市田君が医院長で勤務する茅ヶ崎の東部総合病院に就職しています。

神奈川工科大学の理事長や学長とは同級生の市田君とは関係があります。昨日の7月1日には、3ヶ月に一度ですが、市田君から血液を溶かす薬と血圧をさげる薬の処方と健診を茅ヶ崎の東部総合病院で受けました。

そのコネもあり、2018年に1年間AIロボットの非常勤講師で大学院生に授業を教えたことがあります。当時はあまり太陽電池に関心が全くありませんでした。2017年に自分の発明が盗まれていることを2年後の2019年の春に初めて知り、あわてて、IEEEに学会発表をする努力が必要だったと反省し学会に自分の発明を説明PRする努力をする事になりました。2019年9月の秋にはじめて論文を発表する事ができました。

東北大学の小柳先生が運営委員長をされておられた、3次元集積回路のIEEEの国際学会（3DIC）で、SONYの現役後輩技術者からSONYの生DATA写真をもらい、手伝ってもらい論文を発表することができました。

あれから10件以上 IEEE の学会の論文を連発しています。だいたい IEEE の学会で私がまことの PINNED PHOODIODE の発明者であると理解して応援してくれる仲間が増えましたが、一番悪いのは IEEE の学会に論文を発表しなかった萩原自身と理解しています。

SONY 勤務時代、SONY の方針に従い、他社の追従を恐れて IEEE の学会での論文発表や、国際学会を通じて教育活動に努力する事を怠りました。

SONY の越智さんや森尾さんだけでなく井深さんも盛田さんも学会にはまったく関心がなく、中研時代、最初の発明と原理試作の社外発表には、生産技術に関係する可能性がある理由で、極秘扱いが徹底されていました。

学会発表したいと希望しても、当時の職場の上司はたいへん冷たい態度でした。私はTOPと意見が合わず、従わなかっただけです。反論すると、いじわる、今でいうパワハラを受けていました。それで精神的にストレスが大きい時代でした。

本当は、特許を出願し他社のビジネスを阻止する事には私としてはあまり関心がありませんでした。特許出願はあくまで自分の発明の記録であり、またビジネスを守るのが最大の目的であると理解していました。ビジネスでお金もうけをしたい人がすればいい事と考えていました。

できれば中国でもロシアで私のアイデアで最初にすばらしい効率のいい太陽電池を完成してもらえればそれでも OK と思っています。太陽の光と地球の水は人類の共通の財産だと思っており意地悪はしたくありません。もうビジネスに関してもう完全に関係したくありません。あくまで研究者としてすべてを公開して実用化を加速させたいと希望します。私もそんなに先が長くありません。公開していろいろと論文で発見やアイデアを記載することを最優先としたいです。今迄 SONY だけを豊かにしましたが、日本には定年制度がある為に年齢差別を受けて退職する元気な人が多数います。私も愛する会社の SONY から事実上使い捨てにされました。今では、日本の定年制度は、古い時代遅れの弊害の多い、悪の根源制度です。

学会発表も特許出願もせず、KHOWHOW が社会流出を恐れ、厳しい社内検閲を受けて、特許に記載したい内容が削られても、SONY の会社の方針のいいなりになりました。SONY への愛社精神と理解し、逆に、謙虚に、自分の家族を食べさせてくれる会社への感謝を感じました。自分の好きな技術開発に、モノ造りに専念できました。「お金や名誉は後でついてくる」と考え、会社のビジネスには関心が全くありませんでした。

会社は人であり社会貢献を使命としますが、多くの日本の科学者が自分の母国に失望し、日本を去り世界で活躍する中、自分のもと会社をぼろくそに悪く言いけなす姿を見て私は悲しく感じます。